



センターでは次のような事業を行っています



学生支援事業① 進路相談・各種面談の実施

小学校の先生と中学校の先生…自分はどちらを目指すか迷っている、幼稚園と保育園…自分にはどちらが向いているのだろうか?、そんな悩みを持つ学生さんにも、スタッフ一人ひとりが優しく丁寧に応じています!



学生支援事業② 教職指導主事による採用試験対策講座・赴任前研修の実施

現場の管理職経験者でもある教職指導主事の先生方からは、教科書では学ぶことのできない多くの実践的知識を得ることができます!



学生支援事業③ 大手有名予備校による採用試験対策講座

採用試験突破に向け、受講者全員、真剣に臨んでいます!



教員免許状更新講習事業

教員免許状は取得後、一定の時期に更新講習を受けなければ失効してしまいます。当センターでは地域貢献の一つとして、先生方のお役に立てるよう例年8月に更新講習会を開催しています!



教員免許状一括申請・保育士登録関連事業

卒業年次生の便宜を図るため、各学生さんからの申込書類を一括して関係機関に申請する業務を行っています。そのため教員免許状については、学位記授与式当日に受け取ることができます!



各種有償ボランティア窓口事業

高崎市内の小中学校を中心に、子どもたちの支援を目的とした各種有償ボランティアの紹介を行っています。参加した学生さんたちは、子どもたちとのふれあいを通して教育職・保育職に対する魅力を一層感じとっています!



教職履修カルテに関する先進的な取り組み

教職課程に必須とされる履修カルテについては、他大学ではあまり例のないクラウドシステムを活用しており、学生さんや教員の利便性向上と情報の一括管理を図るなど、先進的な取り組みを行っています!

実習に関する調整

教員養成に関わる健康栄養学科・看護学科・子ども教育学科の3学科に及ぶ教職課程履修者の各種実習先の実態等を踏まえ、学生さんが無理なく円滑に実習ができるよう、実習期間の調整業務等も行っています!



「教育職・保育職等で働く！」

という夢を実現した

健大卒業生からの メッセージ

Message
From graduates

群馬県(公立)幼稚園

幼稚園教諭 小林 奈央さん (令和2年度卒)

私は、実習を機に群馬県の幼稚園教諭になりたいという思いを抱きました。初めは試験への不安が大きく諦めかけたこともありましたが、センターの先生方に背中を押しもらい受験を決意しました。そこからは、自分のペースで努力するという意識で勉強等に取り組みました。私は大学4年間続けてきた競技があるので、勉強と競技に向かう時間を明確に分けることでどちらも自分のペースで続けることが出来ました。小論文や面接は苦手な分野でしたが、センターの先生方ご指導の下、時間をかけ繰り返し行うことで少しずつ自分の考えを深めることができました。この努力した経験を忘れず、子どもたちや保護者と丁寧にコミュニケーションがとれる幼稚園教諭となれるようこれからも努力していきます。



新潟県(公立)保育園

保育士 竹田 里菜さん (令和2年度卒)

私は、2年生の頃から採用試験に向けた講座に参加しました。先輩方から具体的な勉強方法を教えて頂き、早くから採用試験に向けた意識を高めることができました。教職支援センターの先生方には、小論文指導や面接練習をして頂きました。最初は、自分の考えを簡潔に伝えることが苦手でしたが、練習を重ねるうちに、自分が伝えたいことが明確になりました。採用試験では、積み重ねてきた練習が自信に繋がり、落ち着いて自分の考えを面接官に伝えることができました。不安な時は、先生方が親身になって相談にのって下さり、最後まで諦めずに試験に臨むことができました。



私は、子どもや保護者の気持ちに寄り添い、障がいの有無に関わらず、一人ひとりの子どもの良さを認めることができる保育者になりたいです。

群馬県(私立)保育園

保育士 神沢 百花さん (令和2年度卒)

私は、自分から積極的に動くことが苦手でした。しかし、就職を考えた時に幼い頃からの夢だった保育士になるにあたり、自分が本当に良いと思う保育所で働きたい、妥協したくないと思い、園見学バスツアーや群馬県の認定こども園や保育所、幼稚園が集まる合同説明会等あらゆるイベントに参加して自分の保育観と合う保育施設を探しました。自分で動くことでサポートをしてくださる先生方はたくさんいるし、自分と同じ思いで頑張っている仲間もいます。そのおかげで私は自分が働きたいと心から思える保育所に会うことができました。自分の将来は自分でしか決められないし、誰も決めてはくれません。きちんと自分の将来と向き合い、自ら動いて一番納得できる就職先を見つけていってください。応援しています！



群馬県(私立)こども園

保育教諭 田口 舞さん (令和2年度卒)

私は、幼い頃から保育士になりたいという夢を持っていました。大学で就職について考え始めた時に、公立の園も考えましたが自分がここで長く働きたいと思える園に就職したいと考え私立の幼稚園に就職しようと決めました。実習やボランティアを通して様々な園を見ることで、園によって特徴があることや保育の仕方がそれぞれ異なることを実感し、自分が働きたいと思う園をしっかりとイメージすることができました。大学ではピアノ伴奏や絵本の読み聞かせなどの実技に加え、子どもの心理学や親子関係など保育者として必要な学びがたくさんありました。四年間で学んだことを生かし、子どもと一緒に様々な体験をしながら嬉しさや悔しさなど気持ちの共有ができる保育者になりたいと思います。



群馬県 児童養護施設

保育士 涌井 涼花さん (令和2年度卒)



私は、大学に入学した当初から、将来、虐待を受けた子どもの支援をする仕事をしたいという思いがありました。そのため、2年次から児童養護施設で学習支援のボランティアに取り組み、施設の実態や児童虐待に対する理解を深めていきました。また、教職支援センターの先生方には、採用試験直前まで時間をかけて丁寧に面接指導をしていただきました。その結果、入学当初からの夢を実現することができました。

児童養護施設は、共に生活する中で一人ひとりの子どもと密に関わることができます。子どものありのままを受けとめることを大切に、様々な事情を抱える子どもたちに根気強く向き合いたいと思います。そして、子どもたちにとって一番安心できる存在となれるように頑張りたいと思います。

栃木県(公立)小学校

教諭 西 悠輝さん (令和2年度卒)



栃木県で教員として働くことは、私にとって大きな夢でした。「子どもたちと多くの場面で関わりたい」、「学ぶ楽しさを伝えてくださった故郷の先生方に、教育で恩返しをしたい」といった思いがありました。ところが、教員になるまでの道のりは、決して平坦なものではありませんでした。勉強がうまくいかなかったり、将来に不安を感じたりと多くの壁にぶつかりました。また、自分なりに努力を積み重ねても結果が出ず、悩むことも多々ありました。しかしながら、周囲には教員を志す多くの学生や、教職支援センターの先生方がいました。最後まで教員採用試験に向けて努力したこと、多くの支えがあったことで、今の私があります。努力は裏切りません。自分を信じ、多くの仲間と支え合いながら夢を実現してください。

群馬県(公立)中学校

教諭 山本 祐奈さん (令和2年度卒)



私は、大学3年の秋ごろから、教員を目指す友達と大学で本格的に教採の勉強を始めました。コロナ禍ということで、途中からは自宅で勉強をしていましたが、それでも友達とオンラインでつなぎ、勉強をすることで、お互いを高め合いました。

さらに、英語科の先生方や、教職支援センターの先生方に、願書の添削から2次試験の対策にいたるまでサポートをしていただけたことで、合格を勝ち取れました。このように、教採は、友達や先生方など周りの人の支えがなければ乗り越えられていなかったと思っています。私は、子ども一人ひとりのもてる力を最大限に伸ばせる教師になりたいと思っています。そのために、子どもの良いところを積極的に認め、子どもが自信をもって物事に取り組めるようにしていきます。

埼玉県(公立)特別支援学校

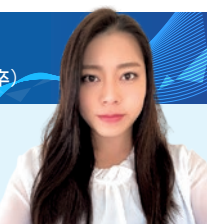
教諭 女屋 多美さん (令和2年度卒)



夢の実現に向けて、たくさんの物事や人たちと関わるようにしました。そうすることで、様々な見方・考え方に触れることができ、自分で考える力や様々なことに対する興味関心に繋がりました。勉強をするだけでなく、日常から学ぶ楽しさを知ることができたので、夢の実現にも繋がったのだと思います。また、大学には同じ志を持つ仲間や、助けをくれる教職支援センター等の先生方がいます。一緒に学び考えを深めていくことは、本当に私の財産になりました。これから教師になるにあたり、子どもが親しみを持ちながらも尊敬できる教師になりたいと思います。そのため、日々の生活の中で、子どもに寄り添い、気持ちを受け止め、また善悪をしっかりと伝えながら子ども一人ひとりと関わっていきたくです。

群馬県(公立)小学校

養護教諭 青木 萌絵さん (令和元年度卒)



私は、純粋無垢な子どもが好きです。また相手の話をゆっくりと聞くことが得意です。それを生かし子どもに寄り添い子どもを理解して支援することができる養護教諭になりたいという強い思いがあり、健大の養護教諭課程を選択しました。看護のカリキュラムを履修しながら教職課程を同時に学ぶ学生生活は、正直ハードでした。

しかし、実践的で現場をイメージしやすい授業や演習、同じ目標をもつ仲間、いつでも気軽に相談できる教職支援センターの存在があったからこそ、一つ一つ着実に身に着けることができました。非常に充実した大学生活を終えて一番感じることは、たくさんの人に支えられているということです。どんなことにも感謝の気持ちを忘れず、そして常に子どもを第一に考えた養護教諭でありたいと考えます。

秋田県(公立)小学校

栄養教諭 大友 真奈美さん (令和元年度卒)



大学で学ぶ中で、学校給食のもつ魅力について学び、栄養教諭になることを目指しました。学生時代、管理栄養士国家試験と教員採用試験の勉強の両立に大変苦労したことを覚えています。しかし、同じ学科の仲間はもちろん、教職を目指す他学科の仲間と共に、毎日欠かさず試験勉強や面接練習に励むことができ、その練習を糧に強い気持ちで試験に臨むことができました。栄養教諭1年目は、失敗と反省ばかりの毎日でしたが、子どもたちの元気な「おいしかった!」や「ごちそうさま」の声に励まされながら、忙しくも充実した日々を送ることができました。まだまだ未熟な部分ばかりですが、給食を通して、食のもつ楽しさや大切さを伝えられる栄養教諭を目指して、今後も精進していきたいです。